

政策 04 安全で安心なまちづくり

施策 01 防災・減災対策の推進

あるべき姿

施策がめざす尾張旭市の姿
災害に強いまち、減災できる人・地域になっています。

施策の成果状況と評価

グラフの凡例 前 後期基準値及び後期目標値 実績値

指標	市の災害対策・防災体制に安心感を持つ市民の割合（％）	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
		【危機管理課】	66.5	-	76	70
評価	(状況) 前々年度の実績値に比べ、現状値が9.1ポイント増加した。 (原因) 新たに作成した防災ガイドブックの全戸配布や防災アプリの運用開始など、防災対策の周知徹底によるものであると考える。	(％) 				対 前年度
		☀ (向上)	目 標 達 成 度	☀ (達成)		

指標	市民レベルでの防災・減災体制ができていると思う市民の割合（％）	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
		【危機管理課】	36.3	-	33	55
評価	(状況) 前々年度の実績値に比べ、現状値が3.8ポイント減少した。 (原因) 新型コロナウイルス感染症の影響により、複数年にわたり防災活動を含む地域活動自体が縮小傾向にあることが大きな要因であるとする。また、アンケート回答者層について、地域活動への参加が比較的少ない単身者、会社員等の就労者の割合が例年と比べ大きく増加したことも減少の一つの要因と考える。	(％) 				対 前年度
		☂ (低下)	目 標 達 成 度	(---)		

基本事業の成果状況と評価

基本事業01 防災・減災意識の高揚

グラフの凡例 前 後期基準値及び後期目標値 実績値

指標	各公民館及び小中学校（体育館）が避難所であることを知っている市民の割合（％） 【危機管理課】	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
		69.6	-	62	80	☂ (低下)
評価	（状況）前々年度の実績値に比べ、現状値が9.7ポイント減少した。 （原因）職業別では学生、家族構成別では単身世帯の認知度が低い傾向にあるが、令和3年度は、アンケート回答者のうち単身者と学生の占める割合が例年に比べ大きく増加したことも減少の一つの要因と考える。					対 前年度
						☂ (低下)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業01 防災・減災意識の高揚

指標	家庭での防災・減災対策の平均実践項目数(全14項目中)（項目） 【危機管理課】	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
		4.6	-	4.16	7	☂ (低下)
評価	（状況）前々年度の実績値に比べ、現状値が0.72ポイント減少した。 （原因）毎年、職業別では専業主婦（夫）と無職層の実践項目数は高く、会社員等と学生は低い傾向にある。また家族構成別では単身世帯の実践項目数が低い傾向にあるが、令和3年度はアンケート回答者の割合が、職業別では専業主婦（夫）と無職層の大幅減と会社員等の大幅増、家族構成別では単身者の大幅増という特殊な状況が減少の要因と考える。					対 前年度
						☂ (低下)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業02 災害情報システムの充実

指標	災害情報メール配信サービス加入者数（人） 【危機管理課】	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
		8,829	9,452	9,352	10,000	☀ (向上)
評価	（状況）前年度の実績値に比べ、現状値が100人減少した。 （原因）令和3年度から新たな防災情報配信ツールとして「尾張旭市防災アプリ」の運用を開始したことで、新規登録件数が分散されたことや、配信内容が同一のため、防災アプリへの代替が発生したことが要因と考える。					対 前年度
						☂ (低下)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業03 避難生活の支援

指標	避難想定住民（8,262名）への1人あたりの食数（食） 【危機管理課】	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
		8.3	9.2	9.2	9	☀ (向上)
評価	（状況）前年度の実績値と比べ、現状値は同数。 （原因）備蓄計画に基づく計画的な備蓄食料等の購入により、適正な必要数を維持できていることが要因である。 対基準値は、平成24年の基準値取得時から避難想定住民数が増加したため、比較不可としている。					対 前年度
						☁ (横ばい)
						目 標 達 成 度
						🏰 (達成)

基本事業03 避難生活の支援

グラフの凡例 前 後期基準値及び後期目標値 実績値

指標	避難所の充足率（％）	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
	【危機管理課】	70.1	70.1	70.1	100	(横ばい)
評価	(状況)前年度の実績値に比べ、現状値は同数。 (原因)平成26年度に想定した避難者数に対し、指定済みの避難所収容人数が不足している状況下で、昨年度から避難所指定数に変更がないことが要因である。					対 前年度
						(横ばい)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業04 防災体制の充実

指標	自主防災組織が実施した防災活動日数の平均数（日）	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
	【危機管理課】	17	16	15.4	24	(低下)
評価	数値未確定（5月中旬頃確定 確定時期） (状況)前年度の実績値に比べ、現状値が0.6ポイント減少した。 (原因)昨年に続きコロナ禍における各種活動の自粛、規模縮小の影響を大きく受けたことが要因と考えられる。					対 前年度
						(横ばい)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業04 防災体制の充実

指標	市や地域の防災訓練に参加している市民の割合（％）	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
	【危機管理課】	12.3	-	8.1	20	(低下)
評価	(状況)前々年度の実績値に比べ、現状値が6.8ポイント減少した。 (原因)新型コロナウイルス感染症の影響により、複数年にわたり防災訓練参加者の人数制限を実施したことに加え、令和3年度はアンケート回答者の割合うち、例年参加率の高い専業主婦（夫）、無職層の割合が大幅に減少し、参加率の低い会社員等と学生の割合が大幅に増加したことも減少の要因と考える。					対 前年度
						(低下)
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業04 防災体制の充実

指標	災害時に職員として果たすべき役割や初動ができる職員の割合（％）	基準値 (H30)	実績値 (R02)	実績値 (R03)	目標値 (R05)	対 基準値
	【危機管理課】	81.3	76.2	77.6	95	(低下)
評価	(状況)前年度の実績値に比べ、現状値が1.4ポイント増加した。 (原因)避難所班オンライン訓練や、若手職員に対する防災基礎研修の実施など、さまざまな所属、階層に応じたアプローチをすることにより、効率的な防災意識の向上に努めたことが要因である。					対 前年度
						(向上)
						目 標 達 成 度
						(---)

